

令和2年度 調布市立第五中学校 学校評価報告書（学校長 生田目 将）

学校の教育目標	
1	自ら学ぶ人になろう（積極性・自主性・自律性）
2	心と体を鍛えよう（強い意志・忍耐力・強健な体力）
3	思いやりと助け合う心をもとう（協力心・責任感・奉仕の精神）
目指す学校像(ビジョン) 例) 学校像, 教員像, 児童・生徒像	
<p>●目指す生徒像：一人一人が輝いている</p> <ul style="list-style-type: none"> ○毎日を心から楽しむ ○目を輝かせて、やりたいことを言える ○信頼しあえる ○自分が好き ○認め合い、助け合い、分かち合える ○当たり前前自信をもってできる <p>●目指す教師像：生徒のために生き生きと輝いている</p> <ul style="list-style-type: none"> ○生徒第一主義を貫く（常に、生徒のため） ○願う生徒像をすべて体現できる ○夢を語り、生徒の目標となり、生徒が夢を抱ける ○教師という仕事を楽しみ、やりがいを持ち、心身ともに元気 ○生徒にしてあげたいことが尽きず、思いを伝え、実行できる ○生徒を理解し褒め、生徒の心に火をつけ、良さを伸ばす ○生徒の成長を喜び、生徒とともに成長する ○授業で「わかる」「かかわる」「できる」を通し、生徒の『発見』を大切にする ○気づきを大切に、常に進化・変化を目指す ○保護者・地域と協力できる <p>★体罰・暴言・不適切な指導 ZERO 宣言「しない・させない・許さない」</p>	

調布市立学校における共通した領域 <短期的な経営目標>

	1 豊かな心(徳)	2 確かな学力(知)	3 健やかな体(体)
	(1) 具体的な取組	(1) 具体的な取組	(1) 具体的な取組
	① 良好な学習集団づくり	① 「わかる」「できる」の実践	① オリパラ教育の推進
	② 多様性を受け入れる学校	② 「かかわる」の実践	② 基礎基本の体力向上
	(2) 成果(数値目標に対して)	(2) 成果(数値目標に対して)	(2) 成果(数値目標に対して)
自己評価	① 臨時休業中や学校再開に際して、個への対応や集団づくりを生徒第一主義・凡事徹底・生活ノート等を通して、組織的に丁寧に行った。アンケートの集団づくりにかかわる各項目の肯定的評価は、すべて87%以上。	① ほとんど授業で「めあてと振り返り」を実施し大切にできた。教師間で差は生じた。生徒授業アンケートの肯定的評価が平均86.32%。	① GIGAの授業、留学生の授業・オリパラ給食や社会・英語・保健体育等の中心に横断的に国際理解を深めた。オリパラのお友達プロジェクトの活用をさらに進めたい。
自己評価	② 多様性を取り入れた視点で生徒理解を進め、対応や決まりを適宜改善できてきた。アンケートの集団づくりにかかわる各項目の肯定的評価は、すべて90%以上。生徒への多様性の理解を推進が課題。	② コロナ禍の中、自己思考の構築の構築、主体性の育成、ペア・小グループの活動を適時適切に実施できた。生徒授業アンケートの肯定的評価が平均91.55%。Tablet端末導入後の有効活用が課題。	② 都の体力テストの結果が未着。コロナ対応において、体育の授業の制約や休み時間の活動・部活動の制限があり、けが等も微増し、体力の低下は否めない。
学校関係者評価	・豊かな人間性を育むことができ、自己肯定感も高い。 ・委員会活動などに新たな取り組みや工夫がみられる。 ・生徒それぞれの多様性についての取り組みが評価できる。 ・アンケートより教員と生徒の信頼関係の高さが見てとれる。一方、少数であっても否定的な回答として生徒を見逃さないようにしてほしい。	・来年度、タブレット導入後の評価が楽しみ。 ・教員間での差を埋める努力が必要。同教科での意見交換や研修を進めてほしい。 ・今後、リモート授業等の取り組みを進めてほしい。 ・教え方の工夫を継続して研修して欲しい。 ・また、保護者を含めて家庭学習の定着を進めてほしい。	・オリパラのお友達プロジェクトを更に進めてほしい。体験活動を通じて、人間性・思いやり・豊かな心を育む育成につなげてほしい。 ・男子体育の授業評価が低いところがある。検証していく必要がある。

学校の特色を生かした領域 <短期的な経営目標>

	4 安全教育	5 キャリア教育	6 特別支援教育
	(1) 具体的な取組	(1) 具体的な取組	(1) 具体的な取組
	① 五中レスキュー隊トレーニングの実施	① キャリアパスポートの作成	① 特別支援教室の有効活用
	② 部活動ファーストエイドリーダー講習及び熱中症対応シミュレーション訓練の実施	② 生涯を見通した進路指導	② 校内支援の確立及び校内外の周知理解の徹底
	(2) 成果(数値目標に対して)	(2) 成果(数値目標に対して)	(2) 成果(数値目標に対して)
自己評価	①②ともに学校再開後の二学期より講習実施し、生徒の達成感をアンケートより100%以上の結果を得ている。東京都教育委員会の学校表彰(安全教育)も受賞した。他の生徒の認知・有用感をさらに高め、学校としての継続性を根付かせたい。	① 学校統一のキャリアパスポートの作成及び活用は全学年100%実施。保護者アンケートでキャリア教育の理解が70%と低い結果を受け、周知と共同実践を工夫する。	① 巡回教員と担任との授業後の情報共有と助言を毎回100%実践できた。遠く別支援教室の開設2年目において校内整備も進んだ。
自己評価		② 各学年が年間を見通した実践を行えているが、3年間の統一性が課題である。	② 校内支援の整備と全教職員の共通実践は進み成果を上げている。
学校関係者評価	・AEDのシミュレーション研修は重要。今後も継続してほしい。 ・安全教育が進んでいるので、落ち着いた学校生活を送れているのだと思う。一方で、登下校中の様子が気になる。 ・継続して欲しい。	・キャリアパスポートをうまく使い、キャリア教育を進めてほしい。 ・学校だけではなく家庭でもキャリア教育を進めるべき。キャリア教育を行うことで、生涯学ぶ姿勢や時を読む智脳の基を作してほしい。	・今後とも、一人一人のニーズを把握し、適切な支援を望みます。 ・教職員の努力を感じる。

人材育成・組織運営	
自己評価	<ul style="list-style-type: none"> ○各分掌・各学年において、職層や経験に準じる OJT の実施ができた。今後は、さらに組織的計画的意図的な OJT 推進を図っていく。 ○不登校支援や特別支援教育などの点で校内の形式等を整備し、組織的な対応を構築し、周知実践が進んだ。 ○多様性に応じた教育活動体制を進めた。 ○分掌組織の再編や職務分担の整理精選を今後も進める。
学校関係者評価	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の仕事の負担軽減を望む。分掌業務の精選や事務仕事の効率化に努めてほしい。 ・経験の浅い教員とベテラン教員の授業力や学級経営力の差を埋める研修を進めてほしい。 ・職層に応じた仕事が割り振られるように組織を編成してもらいたい。 ・より上位の職層になりたいと思える人材育成を進めてもらいたい。

中期的な経営目標の達成状況
<ol style="list-style-type: none"> ① 「わかる」「かかわる」「できる」授業の実践・・・生徒及び教員の意識下は100%近く進んだ。 ② 主体的・対話的な深い学びの授業と3観点による評価方法の研修及び組織化・・・次年度評価計画は年度内に完成し、次年度以降実施しながら工夫や妥当性を担保しながら、「適正で信頼される評価」の熟成を図っていく。 ③ 特別支援教育の推進（特別支援教室や校内学習支援等の整備等の周知理解）・・・教師の政策の経緯・意義、制度の知識理解は深まった。実践する中で生徒にとっての有用性を図るとともに、個別支援計画や個別の教育支援計画の運用を100%にしていく。 ④ キャリア教育の推進（キャリアパスポートの作成・周知・実践）・・・キャリアパスポートの作成や活用が進んだ。3年間の教育活動とキャリアパスポートの統合を図っていく。 ⑤ 人権教育の推進（生徒・教職員・保護者が多様性を受け入れられる人権感覚の醸成）・・・研修会、OJT、実践の中で進めている。 ⑥ 主幹教諭・教育管理職の育成・・・各自がキャリアプランをもつことを助言していく。適材適所の校務分掌配置や職務の委譲等で経験と達成感を積み重ねながら育成していく。

次年度の重点課題
<p>教育目標の最重点は「知・徳・体」のうちの、『知：自ら学ぶ人になろう』とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○教育目標達成のため、『生徒第一主義』と『良好な学習集団づくり』を柱とする。 ○「わかる・かかわる・できる授業」の実践 <ul style="list-style-type: none"> ・めあてを見定めた授業の工夫や授業改善 ・ICT 機器（Chromebook 等）の有効活用 ・学え合い、支え合い、協力し合える授業 ・振り返りや自宅学習の充実（宿題や Chromebook の活用等） ○生徒主体な自治活動の充実 ○「キャリアパスポート」を使った3年間を見通したキャリア教育の充実 ○すべての教育活動の中で、生徒の「絆づくり」と「居場所づくり」を目指す